



令和2年5月21日

令和2年度小倉祇園太鼓保存振興会主催行事中止のお知らせ

かねて検討中でしたが、令和2年度の小倉祇園太鼓保存振興会主催行事につきましては、
今般の書面による会員総会の結果、下記のとおり決定いたしましたので、ご報告します。

記

1 本祭りまでの諸行事（※） 「中止」

※諸行事：7/1 山鉾すす払い、打ち初め式

7/18 第73回小倉祇園太鼓競演大会、

7/19 第32回小倉祇園太鼓据え太鼓競演会、第46回太鼓広場（廻り祇園）

7/25 大狐おとし

2 本祭り以降の諸行事 今後の状況をみて「個別に判断」

3 その他

会員による太鼓練習や太鼓披露、山車の運行等は当面自粛する。

4 問い合わせ

国指定重要無形民俗文化財 ※登録商標 第5136857号

小倉祇園太鼓保存振興会

事務局 〒803-0813 北九州市小倉北区城内2-1

TEL 093-562-3341 FAX 093-562-3349

■ 祇園祭中止の中村真人会長談話

全国の祭りが延期や中止を打ち出す中、「祇園祭開催の可否判断」について、感染拡大における国、北九州市や世論の動向を見ながら、スケジュールを考えてきました。例年、祇園祭行事は6月上旬に予定している会員説明会までに、会員、行政、警察などの理解が得られる必要があります。もちろん、それまでに各委員会では振興会行事の細部を詰める必要もあります。そこで振興会事務局では、そのための下準備を粛々とおこなってきました。しかし4月上旬には緊急事態宣言が全国に発令され、感染拡大は続くという事態となってしまいました。

これまで、あらゆる面で祇園祭実施に向けて調整をしてきましたが、現在の状況と今後のリスクを考慮すると、「今年の祇園祭はできない」と判断せざるを得ません。クラスター感染が懸念される中、国や北九州市、地域のコンセンサスはおろか、まずは世論に開催が理解していただけません。そこで当会の「役員会」「会員総会」において、承認をいただき中止を決定した次第です。

つきましては今年の振興会行事をはじめ、太鼓練習など人の参集はNGとして、会員に「完全中止」を求めるものであります。つまり今年の7月1日（打ち初め式）から25日（大狐落とし）までの祇園祭は中止となります。

400年の歴史を持つ祇園祭は、昭和28年6月の大水害で競演大会など行事の中止を余儀なくされた記録が残っています。幕末の長州戦争（1866年）や太平洋戦争末期には少なからず影響があったと推測されますが、中止となったという記録は確認できていません。ただ先人たちは祇園祭の復興に尽力されました。明治元年や昭和21年に祇園祭があったという記録は確認できます。また、昭和28年の大水害では無病息災を願って、町内単位で太鼓を打ち鳴らしたという新聞報道も残っています。しかし、今回のコロナウイルス感染は次元が違います。見えない敵と対峙しなければならず、死者、重篤者が多数報告されている状態です。科学が発達した現在でさえ、太刀打ちできない状況です。「小倉祇園太鼓が感染源」となってはならないのです。

小倉祇園祭の小倉祇園太鼓は昨年の400周年で国指定重要無形民俗文化財となり、太鼓塾など通年でおこなわれる行事もできました。少子高齢化の時代、祇園祭の振興のために、これからも続けていく必要のある行事です。1年祇園祭ができなかったことが、どうい影響があるかなどを分析、議論して、来年に向けて何ができるかを考える時間にしたいと思います。そしてコロナウイルス感染が沈静化したら、各委員会による活発な議論がおこなわれ、真の401年目の祇園祭が成功するよう準備しようではありませんか。会員はじめ、市民、国民の皆さま、どうかご理解をお願いします。